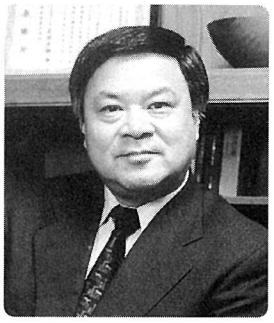
年頭のごあいさつ



社団法人 北海道林産技術普及協会
会長 髙橋秀樹

あけましておめでとうございます。

平成１７年の新春を会員皆様とご一緒にお慶び申し上げます。また日頃より当協会の運営に対し，ご指導ご協力を賜り誠にありがとうございます。

昨年は北海道林産試験場の研究内容や成果を広く知らせる「ウッディ・エイジ」の刊行，「木と暮らしの情報館」の展示による木材製品のＰＲ，木のグランドフェアによる木の良さのＰＲ，試験場と業界間の情報交換など，当協会の主たる役目を果たして参りました。

長年の木のＰＲによりまして，多くの人達が次のような点で木は素晴らしい素材であることが認識されるようになりました。

①木は人間にとって最も優しく，健康に良い天然素材であること
②木は加工するのにエネルギーが少なくてすみ，地球に優しい素材であること
③木は二酸化炭素を固定することができ，地球環境を救う素材であること
④木は再生可能な，人類にとって永久に利用できる素材であること

しかしながら世界的な経済停滞期にあって商品低価格化の波により，木材は苦戦をしいられております。木は良いとは判っていても，予算の関係で塩化ビニールやプラスチックに仕様変更される事が多々あります。また木は木でも中国や東南アジア産の廉価木製品に取って替わられる事も多々あります。よって国産で地元の木材製品を使ってもらうことは中々容易なことではありません。そんな厳しい環境の中で，林業林産業を営み地域社会に貢献されている業界の皆様に対して心より敬意を表するものであります。

今，北海道の木材で蓄積量が多く将来の頼りといえるのは，トドマツの人工林やカラマツ人工林であると思います。商品としてもトドマツは割り物製材や集成材用原板に適しています。北海道のカラマツは針葉樹合板の原料として今までに無く活況を呈しております。また梱包材としてもニュージーランド松に対し競争力を回復していると聞きます。

先般，京都議定書にロシアが批准することが決まり，一挙に森林の役割が高まりましたが，そんな時，北海道を襲った台風１８号で多くの森林が破壊されました。国，道，市町村がお金と時間を掛け手塩にかけて育てたトドマツ，カラマツ人工林が風でなぎ倒されたのです。総被害額は130億円以上と聞いております。洞爺丸台風から50年，人類の英知でやっと森林が回復しつつあったその時に，なんと自然というものは過酷なものであると，あらためて認識した次第であります。これから，なぎ倒された風倒木の処理をしなければなりません。また，その木を旨く利用しなければなりません。そして整理した土地に木を植えなければなりません。我々がまた一歩から木を植え，木を育てて行かねば，地球は二酸化炭素のゴミ箱になってしまうからであります。「どんどん木を使う，どんどん木を植える」この循環と森林再生こそ人類が永続的に生き残る術と思います。

北海道林産試験場は，木の材質を調べる基礎研究から，木材製品の開発・改良，品質保証，バイオマス研究など，「木を有効に使ってもらうため」あらゆる角度から研究しています。この研究が人類の生活を維持し，地球環境を守ることに繋がって行くのです。

北海道林産技術普及協会は「北海道林産試験場」の成果を広く世に知らせ，もっと利用してもらうこと，また業界の要望を試験場に伝えることを役目として，本年も鋭意努力して参ります。今年も変わらぬご指導，ご支援をお願いいたします。